

信念 努力 東北導く

第73回河北文化賞贈呈式

東北の発展に貢献した個人や団体を顕彰する第73回(2023年度)河北文化賞の贈呈式が17日、仙台市青葉区のウェスティンホテル仙台であった。受賞した5個人と1団体の代表は1層の研さん(飛躍)を誓った。

(一面に関連記事)

スズキ記念病院(宮城県)名誉院長の星和彦氏(71)は国内で初めて体外受精(顕微授精)による妊娠にそれぞれ成功し、不妊に悩む男女に希望を与えてきた。二つの治療法を、東北から全国に発信できたことを本賞にうれしく感じると振り返った。

文化史家の浜田直嗣氏(69)は仙台市博物館の学芸員として仙山藩ゆかりの文化財を長年調査研究し、支倉常長ら慶長遣欧使節関係資料の国宝指定などに尽力。私個人でなし得たことではない。多くの幸運とスタッフに恵まれたからこそだと謙遜した。

七宝作家の高橋通子氏(87)は独学で腕を磨き、一度途絶えた「首飾七宝」を復活させたほか、全国各地で指導し普及に努めた。宮城県という素晴らしい環境の中で互いを理解し合い、より良い美意識に発展させてほしい」と若手芸術家に期待を寄せた。

東北大共創戦略センター特任教授の厨川常元氏(66)はスマートフォンカメラなどに使う非球面レンズの超精密加工、噴射加工技術による歯科治療法を開発。賞は今後への期待も込められていると考え、気を引き締めて研究開発に努めたいと意気込んだ。

昭和村からむし生産技術保存協会(福島県)は、イラクサ科の多年草カララムシを生産し上質な繊維を取り出す「芋引き」の継承に取り組む。皆川吉三会長(86)は「われわれの世代で途絶えてしまわぬよう、次の世代に残す努力を諦めず継続」と力を込めた。

登山家の根深誠氏(76)は青森、秋田両県に広がる白神山脈を貫く青秋林道の建設計画を阻み、1993年の世界自然遺産登録につながった。2021年に世界文化遺産に登録された周辺の縄文遺跡を念頭に「複合遺産にするよう訴えてほしい」と先を見据えた。



東北の発展に貢献する5個人1団体の功績をたたえた第73回河北文化賞の贈呈式＝仙台市青葉区のウェスティンホテル仙台

不妊治療 全国に発信

1983年に東北六で体外受精に、93年には福島県立医大の先生方の協力で卵細胞質内精子注入法(顕微授精)による妊娠・出産に成功することができました。本邦で初めて、本邦にうれしく思っています。体外受精の成功から



スズキ記念病院名誉院長 星 和彦氏

地域住民と対話力に

仙台市博物館と宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)に在籍し、師友・台布史編さんに絶好の力を恵まれました。東日本大震災に遭遇、歴史文化が持つ復興に向かう力、被災した方々との交流の重要性を痛感し、進めたいです。



文化史家 浜田 直嗣氏

美術界の発展に期待

知識のない中、1997年七宝焼を始め、十数年後に「首飾七宝」の技法と出会い、ガラスの中に銀線がきらりと光り、透明な美しさに心を奪われました。省胎七宝を作りた、一心で研究、



七宝作家 高橋 通子氏

日本のブランド築く

私の専門は精密加工工学で、ヤパンブランドを築きたいです。成果の一つは、スマートフォンやデジタルカメラに使われている非球面レンズの加工精度を100歳まで自分の歯で研削(10億分の1)レベルに高める研究、精度を「エコー」を自己指針技術を確認し、兆分の1レベルに高め、シ



東北大共創戦略センター特任教授 厨川 常元氏

山村の技継承へ努力

イラクサ科の植物カララムシを栽培し、天然繊維からむしを取り出す「芋引き」の技術を継承しています。かつては、た山村の課題に、協会も直



昭和村からむし生産技術保存協会 皆川 吉三会長

白神と縄文連携図る

青森、秋田両県境に連なる白神の森「白神山脈」に1970年代、林道建設計画が持ち上がり、建設に反対する住民運動を展開して中止に導き、世界自然遺産にも登録されました。ただ、縄文時



登山家 根深 誠氏

審査経過

2023年11月2日の締め切りまでに東北5県の23の個人・団体から受賞57件の推薦があった。分野別の推薦は学術6件、芸術9件、体育・健康・経済・社会活動8件、産業5件、社会活動8件だった。

行動様式の変革促す

東北大言語AI研究センターは2023年10月に新設された。文章生成AI(生成AI)について基礎研究から応用、社会実装、法的問題などに幅広く取り組んでいる。

文章生成AIは対話形式の指示を受け、適切な文章を作る生成器。論文作成や語学学習の支援、ギャグの分析などさまざまな知識の動をサポートしてくれるが、万能ではない。インターネット上のデータを事前学習して構築するため、最新の情報に弱い。情報の正確性や偏った思想に基づく情報操作の問題もある。情報を読み解くリテラシーのレベルが低いと、誤情報をうつる恐れがある。

文章生成AIの学習データは大半が英語なので、日本語の指示がうまくいかないケースがある。このため、国立情報学研究所が主導し、800人以上の研究者や技術者が日本語に強い大規模言語モデルの開発を目指している。私もその一員だ。

AI研究者の最終ゴールは、人間と同等の知的能力を持つ「汎用AI」の実現だ。チャットGPTが登場し、ようやく道筋ができた感覚がある。



記念講演 「文章生成AIの技術革新と社会変容」 東北大言語AI研究センター長・教授 鈴木 潤氏

すずき・じゅん 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科。専門は人工知能言語学。NLP(自然言語処理)とAI(人工知能)の融合研究を推進。2018年に東北大学大学院情報科学研究科准教授。2020年に同大学1次学術奨励賞。AI教育研究センター教授。23年10月から現職。理化学研究所准研究員も務める。